

平成 28 年 4 月 23 日 実施 むさしの教育シンポジウム参加者アンケート結果

参加者数107名 アンケート記入者数 64名

※原則的に原文のまま掲載しておりますが、誤字・脱字、個人や学校等が特定され、かつ、個人的な感情や思い込みに基づくと思われる記述部分は、変更及び削除をしております。

1 本シンポジウムに参加してよかったと思いますか。

記載内容

大変よかった

1	意味のある会に参加できてよかったです。
2	疑問の解決ができた。今後どのように進んでいくか、進んでいくべきか、考えるきっかけとなった。
3	市内小学校保護者として、学校の中の方以外の方々にも、学校について、こんな真剣に考えて頂いていること、本当に子どもたちは幸せだと感じました。
4	スタートとして必要なことだった。はじめから知らなかったと市民から言われることが一番問題だと思う。
5	パネリストの方々の話がとても良かった。
6	メリット・デメリットを考えるきっかけになりました。
7	色々な意見が聞けた。今までカオも知らなかった教育長のお人柄が少し分かって良かった。
8	パネリストや参加した方々の考え方を知ることができたので。
9	シンポの内容もよくわかりましたが、反対する方々がどのような立場であり、考え方に立っているのかがよくわかりました。
10	しかし、もっとこのような機会が必要。多くの市民の理解を得て推進していきましょう。
11	様々な意見があることがわかった。
12	小中一貫について、はじめてくわしく話を聞けたので、この場で色々な意見を聞けた。不満をもっている人が多くいる、ということが、よくわかる会でした。
13	なにをやらかそうとしているのかが、よくわかった。ひどすぎる。
14	宮崎教育長の話し合うことによって、現在の問題点が浮かび上がり、現状の向上につながる、という言葉に同感です。
15	子どもたちのことを考えて武蔵野市の教育について考える良いきっかけになった。
16	今まで、この件について、何も知らされていなかったもので、少し分かったもので。凌風学園のお話はよく分かりました。
17	市民の方々の生の声を伺うことができたので。

よかった

1	とりあえず、小中一貫校についての概念は理解できたのでよかった。
2	賛否はともかく様々な意見が聞けた。さらに多くの市民の方や現場の意見を吸い上げてもらいたい。

3	参加して大変よかったですのですが、進行に問題がありました。 ①小中一貫教育に対する市民の意見、反応の一端がどんなものか知ることができた。 ②小中一貫教育についてこれから議論を深めるプロセスが必要とされる根拠となった。
4	中1ギャップの調査
5	最初の話で、むさしの子どもたちを大事に考え、地域と一緒に考えていくという視点が全く感じられず、とても残念でした。が、シンポジウムでちょっとホッとしました。
6	色々な意見がきけてよかった。教育委員会が必ずしも小中一貫に固執しているわけではなく、ゆっくり議論を深めるとしているところに好感がもてた。
7	この程度の調査(?)と検討で、小中一貫校をつくるということはあるにないということがよく理解できたから。 親や子、教員たちからの声ですすんでいるのではなく、一部の人々の力で動いていることが、よく分かったから。
8	多様な意見に触れる機会となった。
9	いろいろな思い、考えがあるのだということを強く感じました。
10	小中一貫教育について理解が深まった。
11	小中一貫の問題点が良くわかった。
12	どのような考えで教育をしたいのか知ることができた。ただし、小中一貫前提での話になっており、なぜ小中一貫に行きついたか理由が不明。
13	教育に関する知識を得る事ができた。
14	取組みの現状を知ることが出来た。
15	小中一貫校の内容は判った。ただし、本当に一貫校にしてよいのか判断はできなかった。京都からのパネリストの具体的な話は参考になった。
16	形式的でなく、藤井さん、山本さんの意見がきけてよかった。でも分散会は短くて、やりました！という形式を感じた。6・3制を大変革し、4・3・2制、小中一貫校にするには、内容に深いものを感じなかった。なぜ変革するのか？やはり、納得はいかなかった。6・3制の大問題がわからなかった。
17	小中一貫の話題がこの様に具体的に進んでいるとは知りませんでした。そのことを知る良い機会でした。
18	市の小中一貫への目標を知った事。
19	武蔵野市の動向を直接聞いたかったからです。
20	いろいろな意見を聞くことができました。
21	多様な考え方・実践を知ることができたので。
22	私は子どもが居ませんが、子どもの学校教育には大変、思いがあります。今日は、小中一貫教育と言う課題なので参加致しました。これからの社会を創っていく子ども達の教育は大変、大事、考えて下さい。一人一人の講演会のようにディスカッション??には、あまりなっていないのでは?、と思いました。
23	初回としては短い時間でしたが、議論が始まったことは良いこと。迅速に変革していくべきである。

24	あまり根拠がないデータから、よくわからない小中一貫の姿という印象は、自分だけでなく、参加した複数の方たちも同様に感じているのだということがわかったこと。
25	一貫教育に関する事が、ある程度理解できた。課題も戴きました。
26	6・3制と小中一貫校について考える機会となったから。
27	資料が充実していたので。
28	小中一貫教育の方向性が分かった事。
29	市民の方々の意識の高さが分かった。法改正などの情報も得ることができた。
30	立場とわず、意見を伝える機会、よかったです。
31	色々な情報が入って、メリット、デメリットがそれなりに理解できたので良かった。
32	教育委員会や先生方の受け取りの違いや温度差が少し見えた気がして、今後の教育に関しての考え方の参考になる事もありよかったです。先進事例をもっと勉強すべきだと思います。
33	小中一貫に対する思い・考えの多様さ、強さを感じた。

あまりよくなかった

1	ぜんぜん知らなかった、小中一貫をすすめる件について、知った事は良かった。内容は、あまり、とうとつで、よくなかった。
2	キャリア教育に対しての主張が強すぎることに不安を感じる。それよりもコミュニケーション支援教育が、いじめや不登校をなくすキッカケになると思う。
3	時間配分がうまくなかった。中途半端な分散会は不要。パネルディスカッションに時間をかける。
4	参加者による協議に書いてあったが、全くその運び体制ができていない。パネリストに遠くから来てもらう必要があるのか？役所として賛成意見の人だけでなく、違う視点の専門家も呼ぶべき。女性の視点のパネリスト2名だけなのは残念。市民の声、現場の声をきいて、現場をよく見て考えてから取り組みましょう。
5	武蔵野市の小中一貫校のすすめ方の現状を知ることが出来たから、その点は良かった。ただし、内容は非常によくなかった。
6	参加者による協議（分散会）は、これでディスカッション（辞典によると討議（論じあうこと）又は討論（意見を延べ合う））だったのでしょいか？意見、質問を集め、それを発表しただけでした。アンケートと一緒にではないですか？「講演会」と銘打てばいいのに・・・。
7	正直、場違いの様に感じた。地域の者として、子ども達を見守ってきたが、誰のため、本当に子ども達のために、より良いものになってほしいと思いました。

よくなかった

1	パネルディスカッションで集めた意見を、全部公表（名前は匿名で）して欲しい。分散会のパネルディスカッションのところで、「メリットの多い小中一貫を武蔵野でも実施」という前提で話された。小中一貫も悪くはないが、一部の成功例しかない。これを、どこまで実施するつもりなのか、逆に疑問が深まった。小中一貫を受けたいなら私立へ行けばいい。多くの学校の中から選べる。それを「公立」で行う、この意味がよく分からない。全部の学校をこうするのか？一部だけなのか。
---	--

2 全体を通しての御意見、御感想をお書きください。

1	シンポジウムに参加する前と後では一貫教育に対する考え方がいい方向に変わりました。
2	まずは、調査研究のスタートだと思います。実現するかどうかの前にも、このテーマを研究することから見えてくる、現在出来ることやるべきことも見えてくると思います。
3	小中一貫と平行して、あるいは、その前に現状の問題点を聞ききることが必要だと思う。セカンドスクールの外からの評価と中での負担の問題などもそのひとつだと思う。
4	京都の学園は十数年かかったとのこと、武蔵野も長い目で。
5	大変おもしろい、興味深いシンポジウムでした。これをもって終わりにせず、今後も、教育委員会が一人でつき進まず、状況を教えて欲しい、意見を聞いて欲しい。
6	参加した方や一部パネリストの意見でも、皆さん共通しているのは「子ども・保護者・教員・地域を置きざりにしたまま、議論・計画が進んでいる（ように見える）事に対する不安・不信」だと思います。このままでは子どもの教育にとって良い影響を与えられるとは思えません。まずはこの計画をストップして、市民みんなで小中一貫をはじめとした子どもの教育について考えるところから始めるべきと考えます。賛否はそれからです。その場合、武蔵野市お得意の「(建替えまで) 時間がない」作戦で市民を惑わせるのはやめて下さい！！小中一貫が本当に良いと思うのであれば、時間をかけて丁寧に。
7	一般の方、子どもを持つ親が少なすぎます。子どもにとって最善の教育の意見が全く聞こえなかったのが残念です！次回以降すみやかに対応をお願いします。組織的動員をかけており、市議も動員をかけ始めています。しっかりと保護者や子育て中（就学前）に早く伝えることを最優先して下さい。保護者も自分の子どもが卒業してしまっただけのことには、関心が低くなります。保育園・幼稚園＋青少協＋コミセンにて、地域の方々に、知っていただき、応援して頂けるウエーブが必要かと思えます。
8	現場の先生たちの意見をよくきいてあげてください。先生達が主体的にやれるかがカギだそうですが、先生達が本当に言いたいことを言える場ができているのかどうか不安です。上からのテーマを、どう実践していくかのみならず焦点があたって、負担増についての不満や要望をきちんと言えることができない、ということがないようにしないとダメだと思う。ぜひ、先生という、現場を重視して進めていただきたい。
9	第1回目ということで説明等も幅広なものとなっていました、各課題についてもっと掘り下げて場をもっていたきたい。
10	⑤参加者の議論参加が重要と思います。今後の進行に活かしてほしい。
11	小中一貫教育になった場合、発達障害や学習障害のお子さんをどう連携してフォローしていくのかなどについてもお話を伺ってみたいです。学習障害であることが理解されず、小学校の頃から「勉強ができない」ことで不自由さを感じ、中学校で登校拒否になるケースもあるのではないのでしょうか。「隠れ学習障害」のお子さんをどうフォローしていくかも検討していけば、不登校児童が減るのではと思います。

12	なぜ、検討委員会報告をまとめる前に、市民の意見を聞かなかったのか、学校現場にもおろさなかったのか、非常に疑問です。不信をまねいてしまいます。国や都の動向より、武蔵野市を第一に考えていただきたいです。シンポジウムの藤井さん山本さんの言葉に救われました。
13	教職員の意見、父母の意見をていねいにすいあげて下さい。
14	武蔵野市での十分な検討と、現場教師や父母・子供たちの意見をきく場をつくって研究してほしい。
15	これからがスタートです。十分な話し合いが必要であると思いました。
16	①検討することは必要だし、大切と思うが②早まった結論を出すべきではない。
17	市民の方も関心が高いということにおどろきました。子供にとっては、何が一番良いのかを第一に考えていきたい。ただ、今までの流れがあるので、そう簡単には意識は変わらないと思う。武蔵野市で小中一貫を行うのであれば、広く市民の賛同が必要だと思う。
18	パネリストの方たちが共通に話された、しっかり議論をしていく。このことをしっかり市民参加ですすめてほしい。
19	時間をかけて、行っていった方が良かったと思いました。
20	これからもひらかれた機会を下さい。
21	現乳幼児のお母さんお父さんがもっと話をきくべき。
22	もっと公にして、市民に対するパブリックコメントが必要。本当に必要なかどうかということ、原点から皆で考える。
23	参加者の意見交換のできる場を作ってください。女性おふたりの意見、大切！
24	小・中の現状を変えるのであれば、もっと多くの市民や関係者の意見を多く聞いて、はたしてこのあり方で良いのかということをも根本から考える機会にこのシンポジウムを生かして欲しい。現状では、なぜ変更する必要があるのか、根本問題について考えて欲しい。京都の先生からは、小中一貫校のすばらしさが語られたが、はたして本当に問題はないのか、話を聞いていて思ったことは、子どもたちの姿が全く見えないことです。武蔵野市においては、急いで進めるのではなく、多くの市民・現場の教員の声をぜひ聞いて欲しいと思います。現状では今日の協議でも疑問の声があがったので、現段階ではどうけつすべきものと考えます。強引には進めないで下さい。パネリストの藤井さんの話に賛成です。メリット・デメリットをさらに精査し、バラ色の未来だけでなく、導入を検討する前にやるべきことを本当にやったかは、私も同意見です。
25	市は市民や参加者から意見をきき、それに対する回答をするのは、嫌なのでしょうか？どの話し合いに出ても肩すかしばかりです。
26	良い方へ進んでいただければ、地域として協力いたします。
27	すぐに小中連携など、できる事から始め、様々な課題を検討して行ってほしいと思います。
28	小中一貫に関して、主に先生方の方が否定的に感じられました。確かに負担は増えるかと思えます。進めて行くべきだと思いました。今後も情報発信をしてほしいです。
29	教育委員会が先走りすぎであった。もっと協議しましょう。武蔵野の教育はできあがっていない。小中一貫校導入より、先にやらねばならぬことをやってほしい。
30	「6：3・4：3：2」の学校制度が、小学－中学－（高校）の一貫した教育、いじめや不登校の減少になるという根拠も実証もない。

31	分析ができていない。課題、問題の本質が洗いだせていない。対策が小中一貫という答えにならない。
32	委員会の報告書がいじめ、不登校の解決に役立つことを示しているとは思えない。
33	やはり、制度を変える以外にもできることがあるのでは？とも思いました。子どもたちが幸せな子ども時代を過ごせること、それを支えてくださる先生方にご無理がないことなど、これからも考えていきたいです。
34	9年間となり、児童生徒の固定化が心配。
35	天笠先生の研究され、整理された内容から入り口の説明を頂き、とてもわかりやすかったと思います。京都の稲田先生の実例のお話ももっとくわしく伺いたかったです。
36	短時間によくまとまって勉強になった。ありがとうございました。
37	③京都の校長の話は分かり易かった。
38	④パネラーの意見にバラエティーがあった。
39	何故、五小の「開かれた学校づくり協議会委員」をパネリストに選定したのか。（主張には説得力があった）
40	保育・手話付はありがたいです。
41	現保護者、未来の保護者の参加が少ない。小学校でチラシが配布されてから申込み〆切まで約一週間しかなく、事前申込み制、保育ナシでは当事者世代が参加しようがない。（その後保育若干名有、〆切すぎても申込み可と聞いたが、チラシに載っていなければ意味がない）
42	パネルディスカッションはやめたほうがいいですね。直接意見を言いたくて集まった人達に失礼です。
43	進行が悪い。
44	参加者による分散会の進め方が問題です。
45	②進行について最初に詳しく説明する必要がある。
46	初めてだったのでしかたないと思いますが、もう少し意見交換ができるとよかったです。
47	時間が短い。
48	今回のシンポジウムは周知が不足していた。市民の声をきいていこうと思うならば、今後は気をつけてほしいです。
49	年齢の高い方が多いようでした。若い方の参加がもう少し多ければ。
50	チラシに書いてある通りにして欲しかった（＝ディスカッション）
51	パネラーの話が長く、パネルディスカッションができないのは、進行に無理があったということ。予定の内容を再検討して欲しい。
52	本日の記録にディスカッションがあったとは書かないで下さい。
53	分散会において一部の片寄った考えの人間が流れを支配するのは極めて残念である。
54	市の分析や、進め方がよくないということがよくわかりました。
55	報告書の内容も、問題山積です。P 3の(2)①など、特に、分析の結果、どういう問題があるのか、広い視野で考えてほしいです。
56	⑥市のアンケートのとり方は全く不十分。

57	不登校、いじめに取り組むには、報告書に不登校いじめへのデータや声が少ない。
58	委員会報告書は作り直す必要がある。いいかげんすぎる。
59	今やるべきことをしっかり見きわめ、取り組んでいかなければならない。
60	9年間をどのように分けて考えていくのか。例えば、3・4・2年。
61	具体的に実現可能なのか、施設はどのように用意するのか、学童はどうなるのかなど、さらに疑問を持ちました。これからも注意深く見ていきたいと思います。
62	①基調講演では教育現場の臨場感や経験にもとづく実感があまり感じられなかった。具体的な話をもっと聞きたい。
63	役所内部で「推進」を仮説にするのはよいが、その検討はこれから始まるはずである。実験校などはありえないと思う。
64	子供の事実が全てである。既にある小中一貫校のデータ（学力向上、子供の成長等、どのような教育でどのように伸びたかなどの数値的データ・事実）を提供してほしい。
65	「未来を切り拓く意欲と責任感を育てる」というテーマに決定した経緯の説明が必要であった。
66	③やったことに対する不安ではない。④社会の子どもを育てるという論点をしっかりもたなければならぬ。⑤それが見えない。
67	この様なことが進められているのを知りませんでした。現状の問題意識が希薄で、必然性がわかりません。官僚的においブンと。
68	グラフや数字のみで子どもの考えがはかられている。将来の夢をもてない社会、お金がないと大学へいけない社会では、中学生の数値が下がっていくのは、その成長からいっても当然ではないか。先生の負担が益々ふえると思う。先生がのびのびと意見が出来る学校を築けば、子どもものびのびし、自分の考えで力を発揮できる。
69	凌風学園の紹介は役に立ちました。成果としての教職員力UPは、一貫だからではなく工夫で可能ですから、仕組み・意欲をもたせて欲しい。
70	中学校関係の先生方が見受けられなかったが、どう一貫教育に関して考えているのかギモン。
71	良識ある市民の願いを十分受けとめながら慎重に進めていってほしい。
72	今の状態でいいわけない。しかし、その解決が4・3・2制ありきではない。武蔵野市民にという子どもたちへの期待の前に「人間」としての成長、世界市民として育てている子どもとして教育を考えて下さい。
73	藤井さんのすばらしい御意見、全く同感でした。先生方の力量、いい人に当たれば、昔からもありましたが、6年間、3年間過ぎてしまいます。保護者の方々がもっと関わり、参加（いろいろな場）していただければ、若い人のにない手がそだちません。
74	教育「人が人を育てる」ことだと考える。人を育てるためには、「育てられる人を育てること」が大事。その部分を現場に押しつけている現行（予定している）小中一貫は、失敗するだろう。このための教員養成が同時に語られない限り、机上の空論になってしまう。オランダやフィンランドなど、まず、教員の育成にお金をかけている。京都の凌風学園は、この成果が大きいと語ったが「できる子供たち」の集団の場合、子供を「できる子」に限定する教育を目指すのか？
75	議会では市民の理解が得られたとは報告しないで下さい

76	公共施設の縮減との関連がまったくなかったのは少しもの足りません。情報提供すべきと考えます。
77	小中一貫をなぜやるのかがはっきりしなかったと思います。今後はどの様なかたちで市民の意見を聞くのかわかりません。